

科目名	理解と表現	担当教員	大池 京子 和田 義哉 伊藤 俊一 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	---

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法専攻 作業療法専攻	教養科目	必修	1年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13A	①					

科目概要	教育と研究を遂行するには、適切なコミュニケーション能力を必要とする。単なる情報や知識のやりとりを超えた対話状況では、他者の話を聴き取る力や、共感的な対人関係の維持および関係構築能力が不可欠である。本講義では、広い意味でのコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。
学習目標	① 英語圏における異文化コミュニケーションに関連した学びを体験する。 ② 医療・社会的コミュニケーション能力の向上を目指す。 ③ 教育的コミュニケーション能力の向上を目指す。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	イントロダクション 他者の視点で世界をしてみる-1	・講義の見通し ・写真・記事・メッセージと dictation を通して他者の置かれた立場や思いを想像・共感する	・講義の見通しをつかむ ・同時代を生きる他者の立場や思いを想像・共感し、自分と世界の人々との繋がりを捉える	大池
2	他者の視点で世界をしてみる-2	・写真・記事・メッセージと dictation を通して他者の置かれた立場や思いを想像・共感する ・ペアワークを通して、お互いを知り、基礎的な文法項目を練習・整理する	・自分と世界の人々との繋がりを捉える ・ペアでのやり取りを通して、英文の組み立て方や文法項目を練習・整理する	大池
3	多様性の理解.1	医療・介護でのセラピスト業務、介護・看護経営業務など、他職種も含めた多様性を整理する	社会人、職業人としてのアイデンティティを理解する (Guest speaker, GS: 鈴木 満 先生)	伊藤
4	多様性の理解.2	社会人として communication の重要性を整理する	コミュニケーションに対する姿勢や注意点を理解する (GS 黒川 美知恵 先生)	伊藤
5	Glocal な出来事	・ Dictation と Guided interview を基に、「忘れられない出来事」作文を書く	・ サンプルエッセイの構成を捉える ・ 自己と他者の視点を含んだ essay「忘れられない出来事」の 1st draft を書く	大池
6	多様性の理解.3	対人関係を円滑にする、より良い姿勢を整理する	対人関係に於ける「姿勢」の重要性やそのポイントを理解する (GS: 岡田莉奈 先生)	伊藤
7	多様性の理解.4	目標設定、キャリアデザイン、ライフプランをを考える	キャリアデザイン、ライフプランの構築に関して理解する (GS: 平山奏那子 先生)	伊藤
8	Glocal な視点、今と未来を繋ぐ行動-1	Self-editing, Peer-editing 等を通し、より自然で簡潔に message を伝える方法を学び、essay に活かす	・ Self-editing, Peer-editing を通して、より自然で分かり易い表現を工夫できる	大池
9	自分を理解する	自分を知ることの大切さ チェックリストによる自己理解	自分がどういう人間かを振り返るだけでなく、今まで気づかない自分を理解できる	和田
10	多様性の理解.5	社会人として他者や組織との関わり方を整理する.①	経営面からの視点から組織に対して要求されることを理解する (GS: 小松弘宣 先生)	伊藤
11	多様性の理解.6	社会人として他者や組織との関わり方を整理する.②	人事、経営者からの視点から社会人に要求されることを理解する (GS: 小松弘宣 先生)	伊藤
12	Glocal な視点、今と未来を繋ぐ行動-2	・ Chunk reading, Dictation ・ 発表タイム ・ 講義のまとめと振り返り	・ より自然で簡潔に message を伝える方法を活かして 2nd draft を完成する ・ Glocal な視点を今後活かそうとする	大池

13	文章で表現する	文章表現方法の見直し	日本語の使い方で、見落としがちな間違った表現方法を学習し利用できる。	和田
14	手紙文の書き方	手紙文の約束事 敬語の基本知識	手紙を書く時の基本的なルールを理解し、相手に失礼のない手紙とは何か理解できる。	和田
15	自分を表現する	プレゼンテーションの仕方	相手にわかりやすく魅力のあるプレゼンテーションとは何かを獲得する。	和田
<b>評価方法</b>		各講義担当者により、レポート試験または筆記試験等が実施される。評価は大池（35点）、青山（35点）、和田（30点）満点とし、その合計を総合評価とする。		
<b>課題に対するフィードバック</b>		授業をとおしてフィードバックする。		
<b>教科図書</b>		教科書は使用しない。適宜、講義資料を配布する。		
<b>参考図書</b>		講義時に随時紹介する。		
<b>学習の準備</b>		事前に配布された資料がある場合は、それを予習し、関連情報にもあたっておく。（90分） 授業後は配布資料や実践した内容、授業内で出された課題について学習する。（90分）		
<b>オフィスアワー</b>		木曜日 12:30~14:00		
<b>担当教員欄に※印を附した教員の実務経験</b>				